
玉野市 男女共同参画に関する意識調査

－ 報告書【概要版】 －

令和 3 年 6 月
玉 野 市

調査の概要

●調査の目的

市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、「第5次たまの男女共同参画プラン」策定のための基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進のための参考資料とする。

●調査の対象

本市に居住する18歳以上の男女1,500人（女性750人・男性750人）

●調査期間

令和2年9月29日～令和2年10月20日

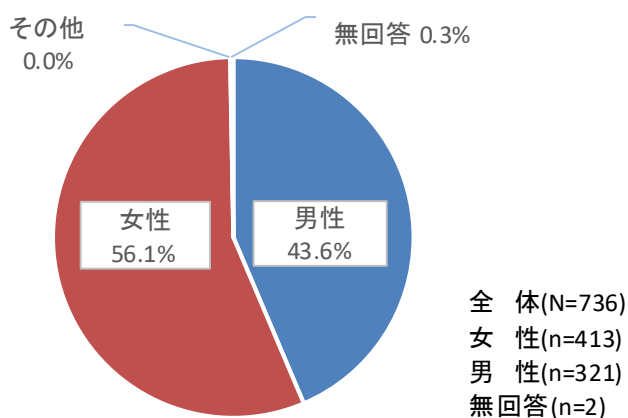
●回収結果

回収数：736件（回収率49.1%）

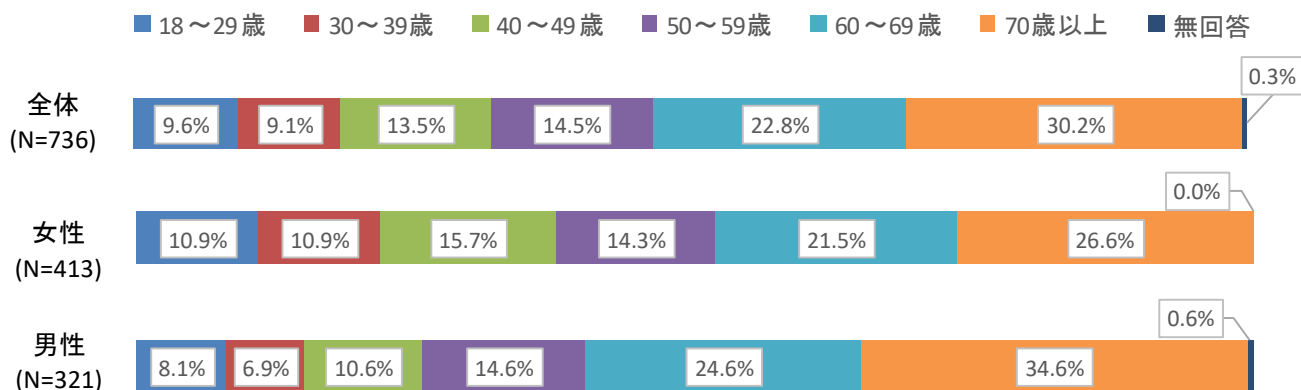
内 訳：女性413件、男性321件、その他0件、無回答2件

●回答者の属性

1 性別



2 年齢別構成



調査結果

1 男女平等意識

●男女の地位の平等意識

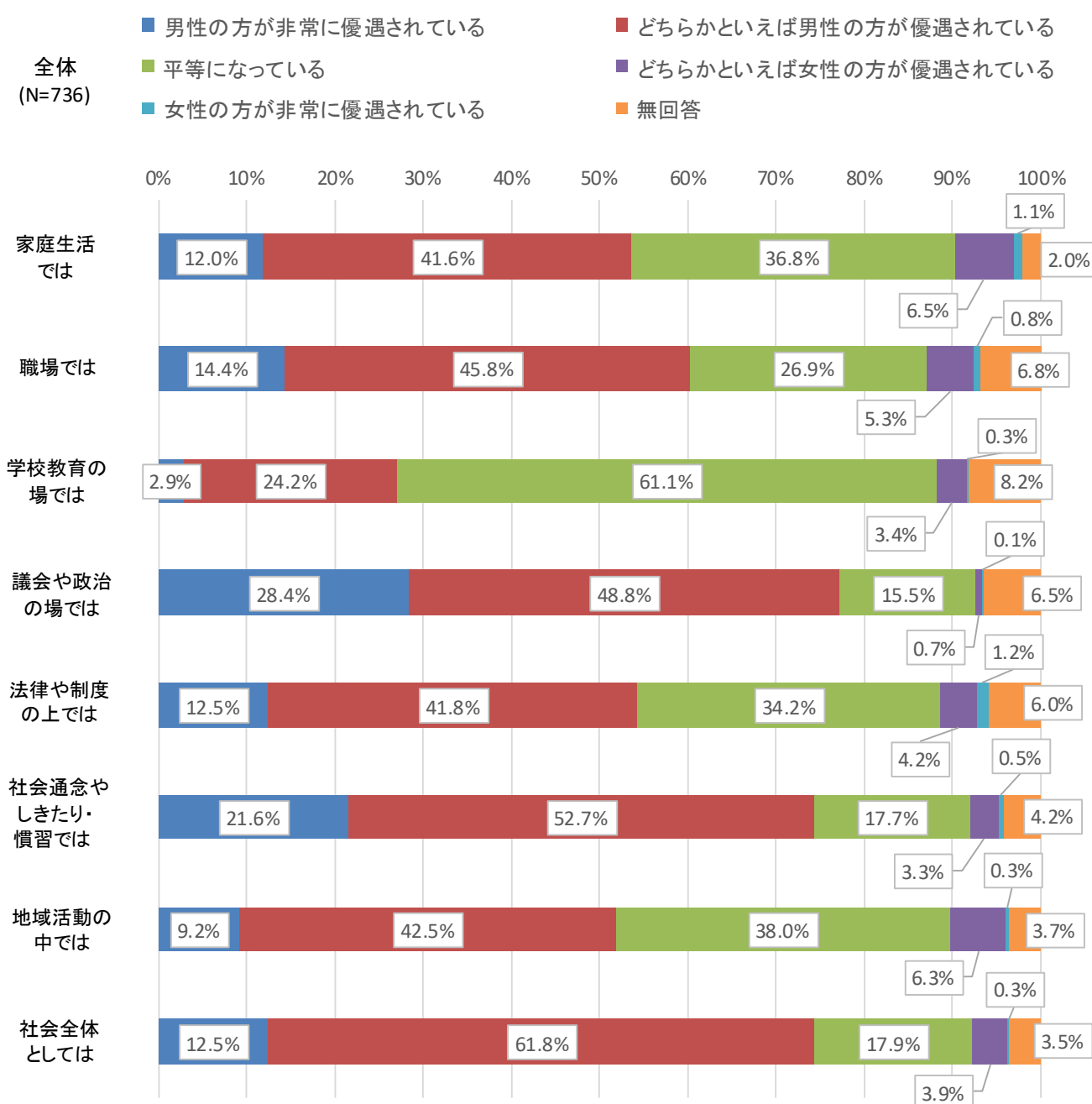
すべての分野において、『※男性優遇』意識が『※女性優遇』意識を上回っている。

「学校教育の場」では、「平等になっている」が最も多く、約 6 割となっている。

「学校教育の場」を除いたすべての分野で『男性優遇』が 5 割を超え、「議会や政治の場」、「社会通念やしきたり・慣習」、「社会全体」では 7 割を超えている。『女性優遇』は、どの分野でも少ない。

※『男性優遇』…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合

※『女性優遇』…「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合



2 職業生活

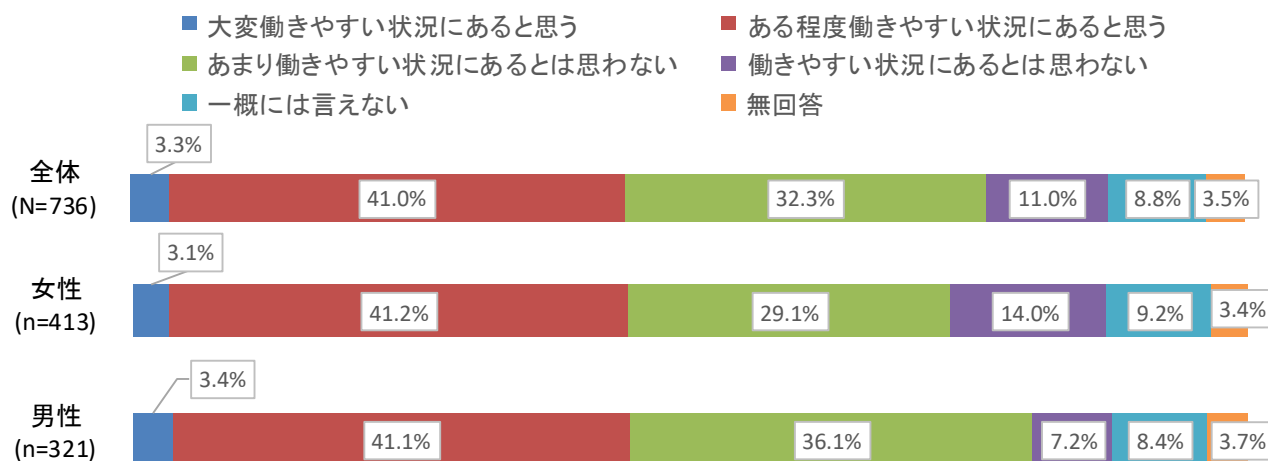
●現在の社会の女性の働きやすさ

『※働きやすい状況にあると思う』と『※働きやすい状況にあるとは思わない』は拮抗している。

「働きやすい状況にあるとは思わない」と回答した人は、男性に比べて女性で多い。

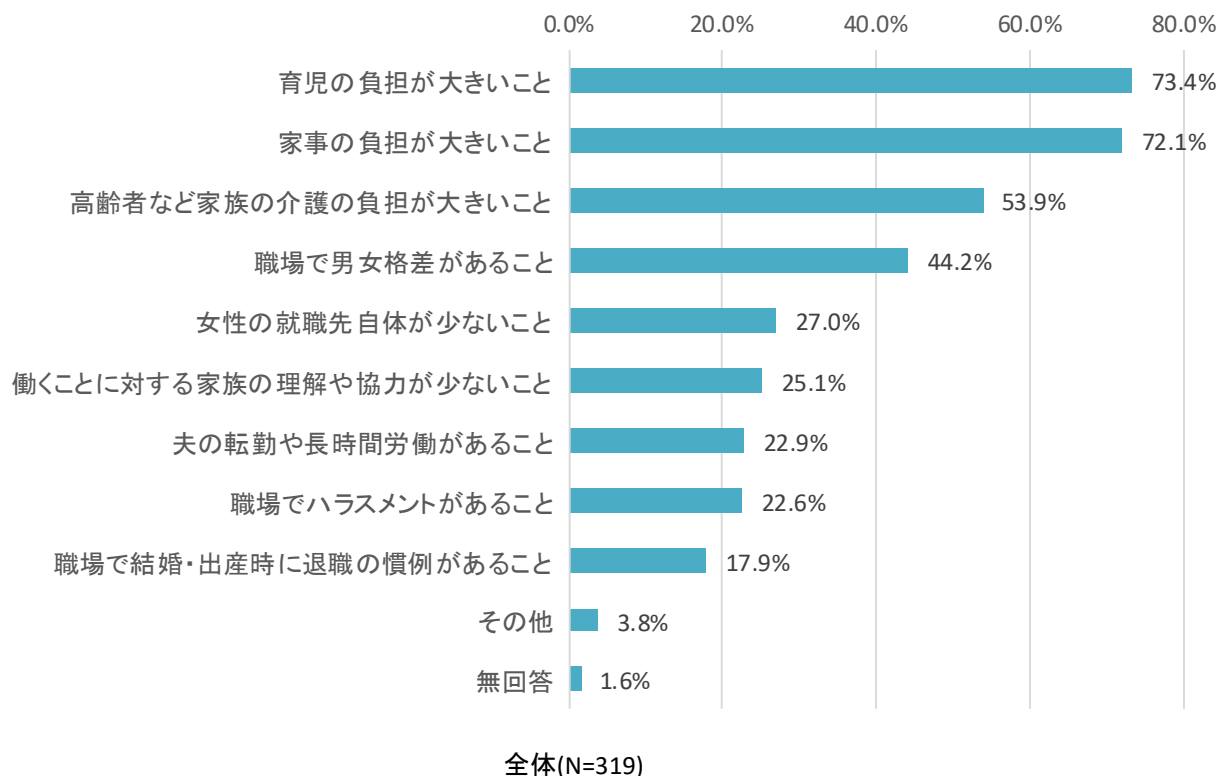
※『働きやすい状況にあると思う』…「大変働きやすい状況にあると思う」と「ある程度働きやすい状況にあると思う」を合わせた割合

※『働きやすい状況にあるとは思わない』…「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」と「働きやすい状況にあるとは思わない」を合わせた割合



●女性が働きにくい理由（複数回答）

『働きやすい状況にあるとは思わない』と回答した人にその理由をたずねたところ、「育児の負担が大きいこと」と「家事の負担が大きいこと」が多く、7割を超えている。次いで、「高齢者など家族の介護の負担が大きいこと」、「職場で男女格差があること」の順となっている。

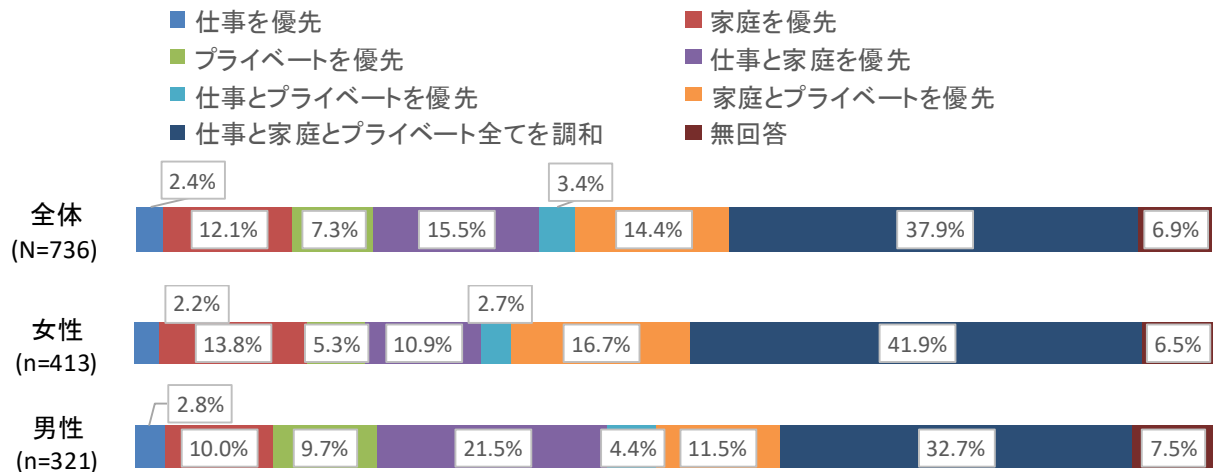


3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

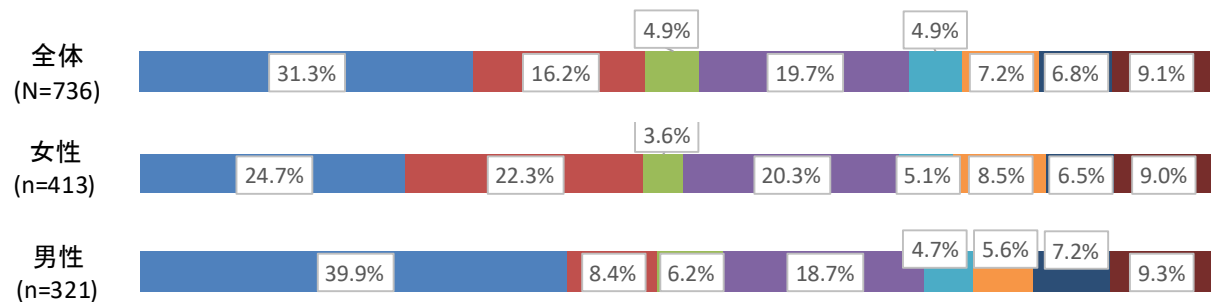
●日常生活の理想と現実

男女とも【理想】とする生活は、「仕事と家庭とプライベート全てを調和」と回答している。ところが、【現実】の生活では、女性は「仕事を優先」、「家庭を優先」、「仕事と家庭を優先」と回答した人が多く、男性は「仕事を優先」と回答した人が最も多く、約4割となっている。

【理想】

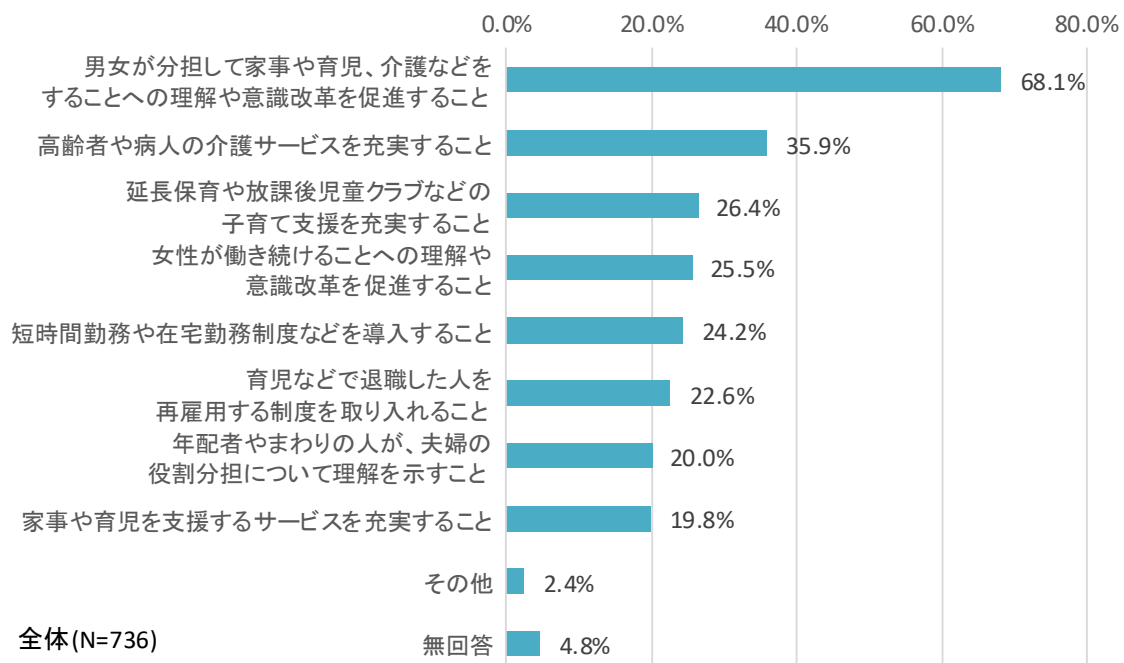


【現実】



●ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なこと（複数回答）

「男女が分担して家事や育児、介護などをする事への理解や意識改革を促進すること」と回答した人が最も多く、約7割となっている。



4 家庭生活と男女の役割

●家庭での役割分担

すべての項目で、「夫婦が同じ程度」と回答した人は【理想】で多くなっている。

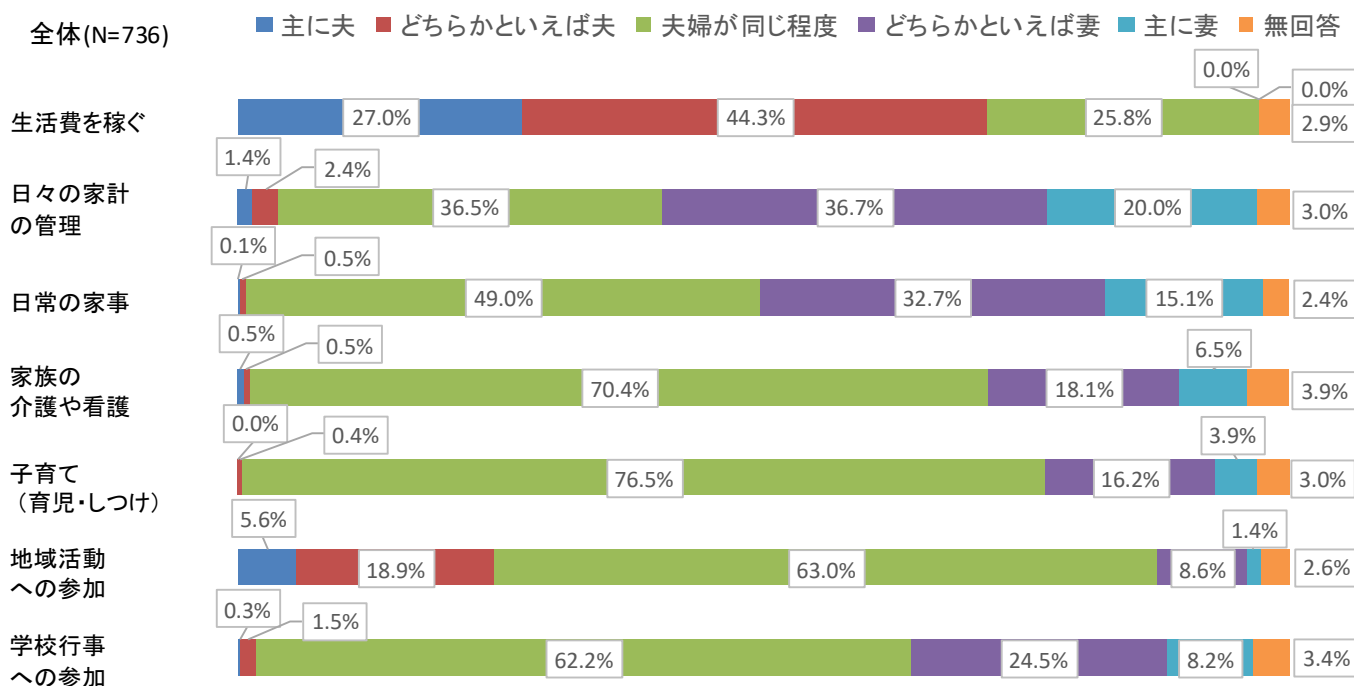
【理想】では、「夫婦が同じ程度」は「子育て（育児・しつけ）」、「家族の介護や看護」で特に多く、7割を超えている。【現実】では、『※夫』は「生活費を稼ぐ」で最も多く、約8割となっている。『※妻』は「日常の家事」（82%）、「日々の家計の管理」（74.1%）で特に多くなっている。

※『夫』…「主に夫」と「どちらかといえば夫」を合わせた割合

※『妻』…「主に妻」と「どちらかといえば妻」を合わせた割合

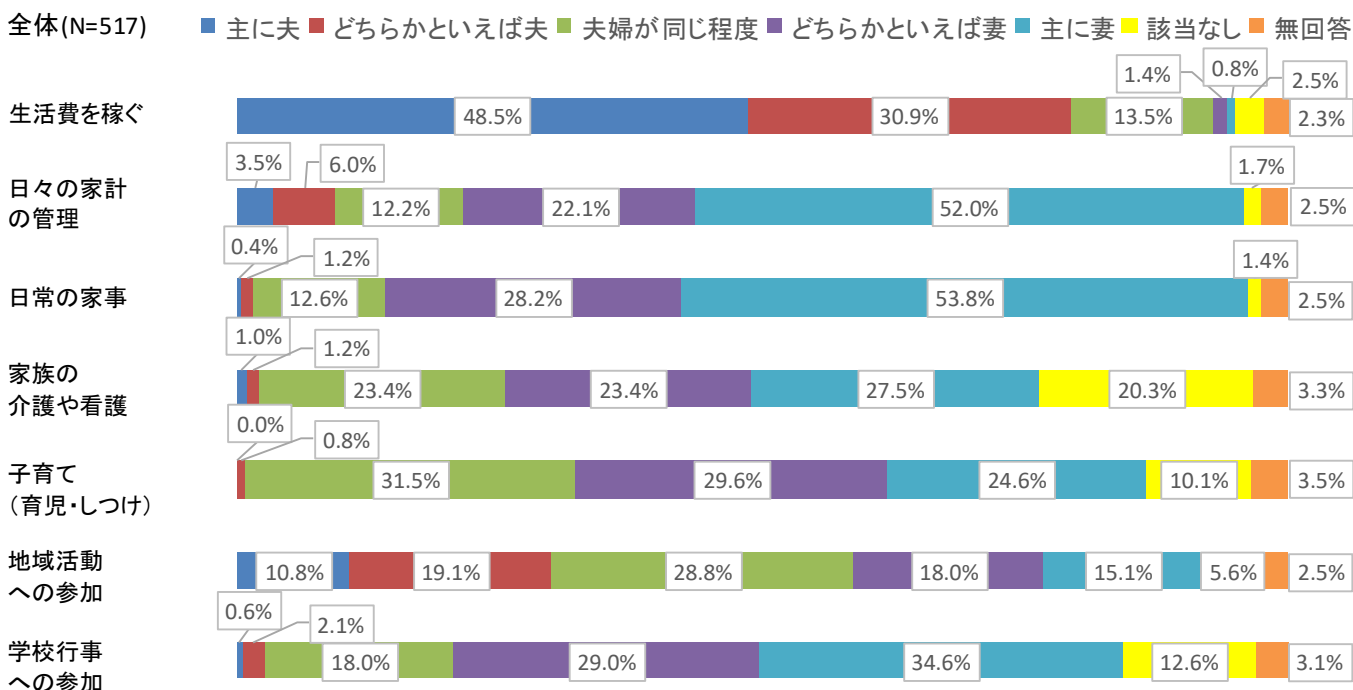
【理想】

全体(N=736)



【現実】

全体(N=517)



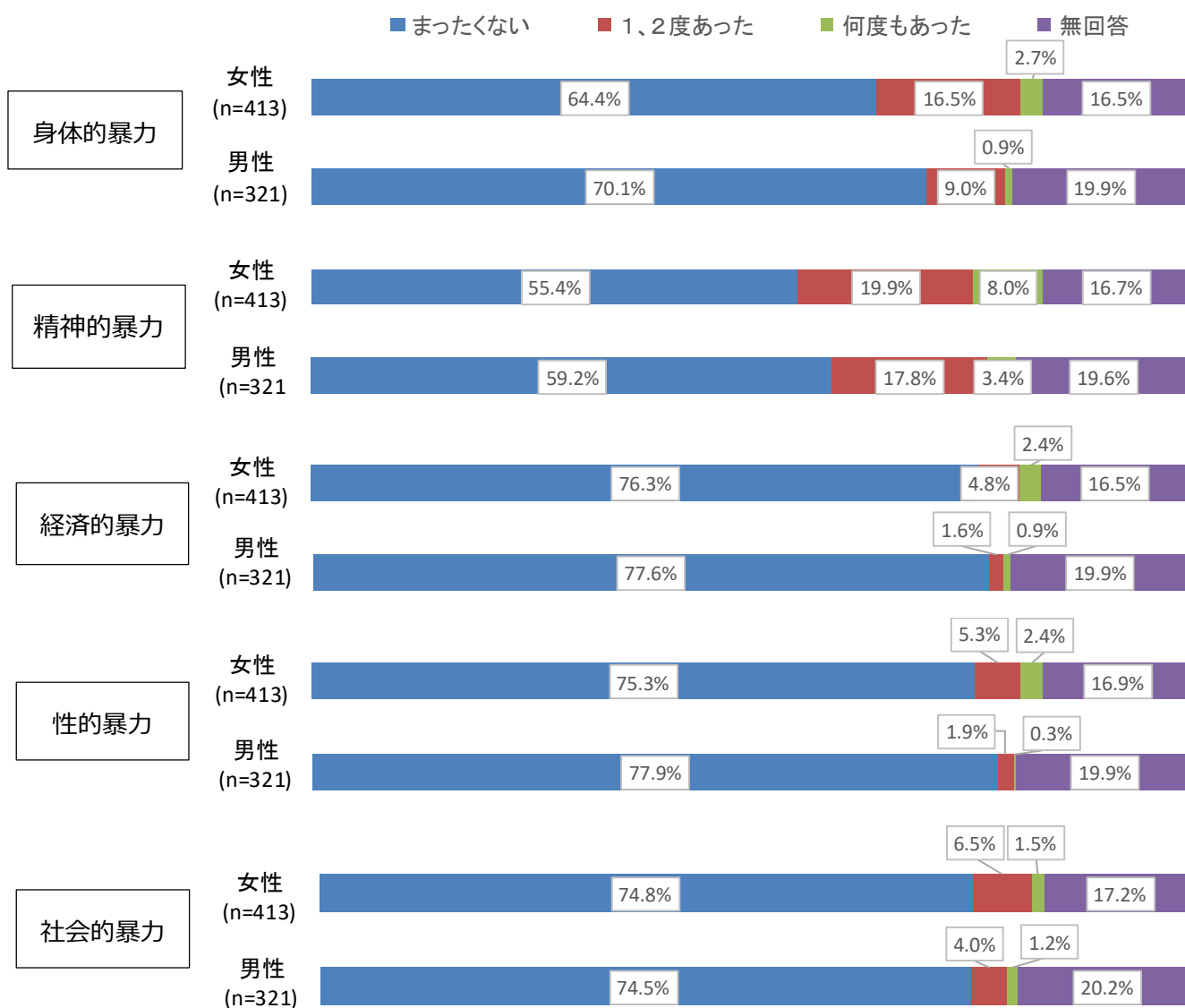
5 人権

●DV（配偶者等からの暴力）の経験

全ての暴力において、『※あった』と回答したのは、男性より女性で多くなっている。

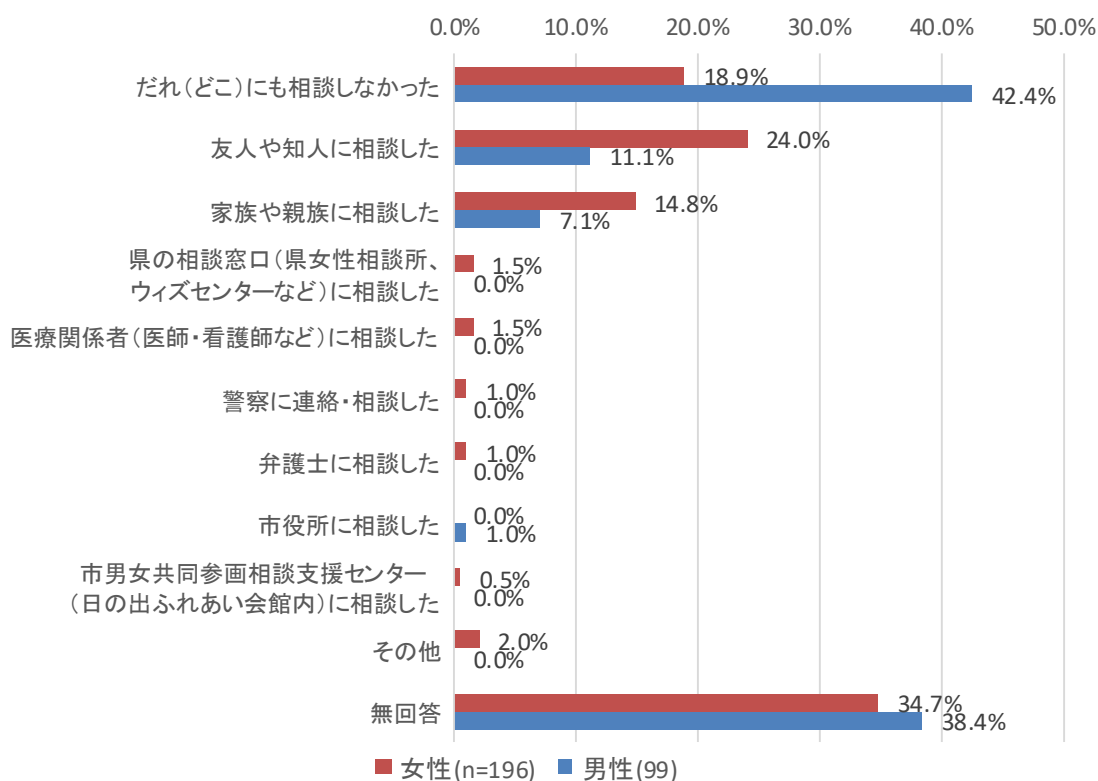
暴力の中で、『あった』は男女ともに「精神的暴力」が最も多く、女性では3割弱、男性では約2割となっている。次いで、「身体的暴力」が多く、女性では2割弱、男性では約1割となっている。

※『あった』…「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた割合



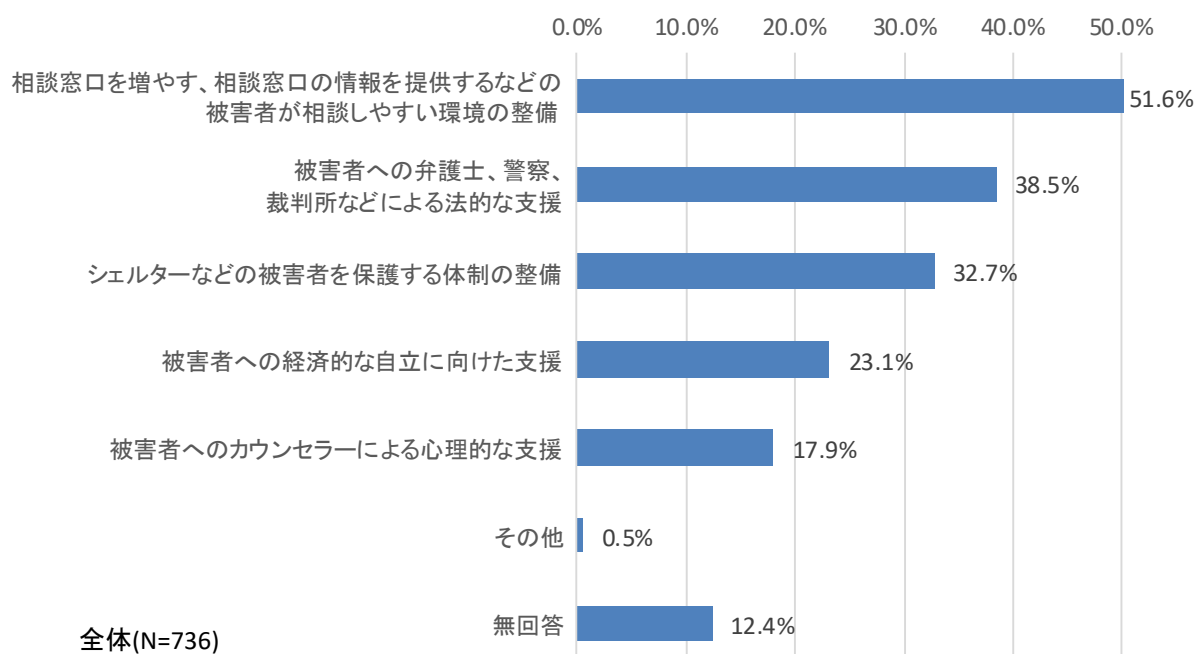
●DV、デートDVの相談状況（複数回答）

DVまたはデートDVを一度でも受けたことがあると回答した人（女性 196 人、男性 99 人）に相談状況を探ねたところ、女性では「友人や知人に相談した」、「だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した人が多く、男性では「だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した人が約 4 割となっている。



●DV被害者のために必要な支援（複数回答）

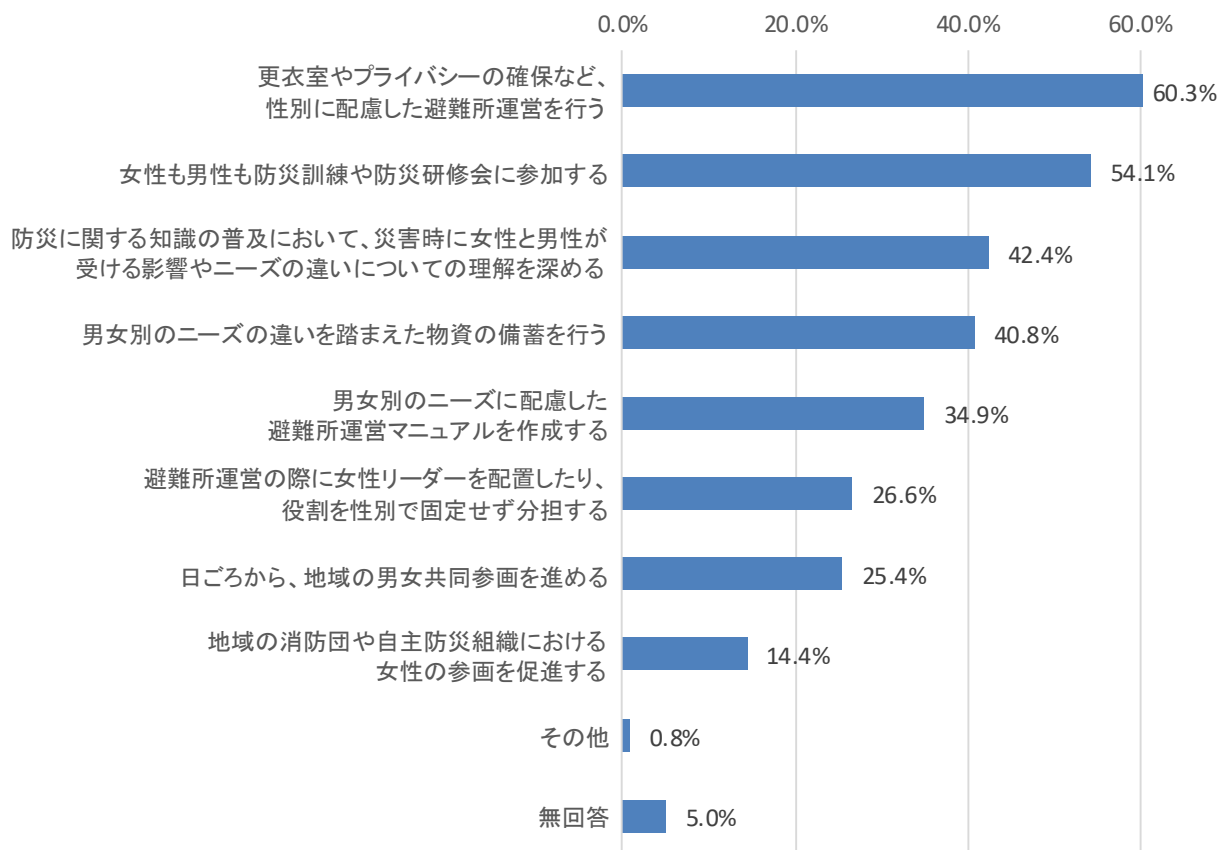
「相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備」と回答した人が約 5 割と最も多く、次いで「被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的な支援」、「シェルターなどの被害者を保護する体制の整備」の順となっている。



6 防災への取組

●防災における男女共同参画を推進するために必要なこと（複数回答）

「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」と回答した人が最も多く、約6割となっている。次いで「女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加する」、「防災に関する知識の普及において、災害時に女性と男性が受ける影響やニーズの違いについての理解を深める」の順となっている。

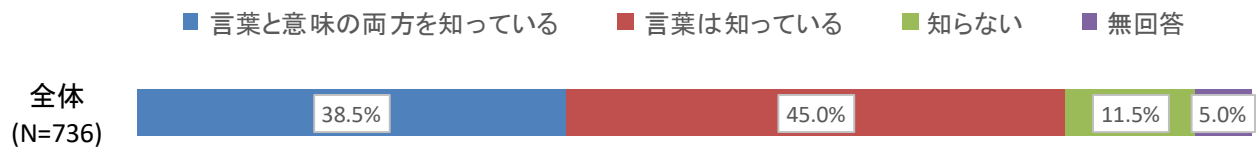


全体(N=736)

7 L G B Tなど性的少数者

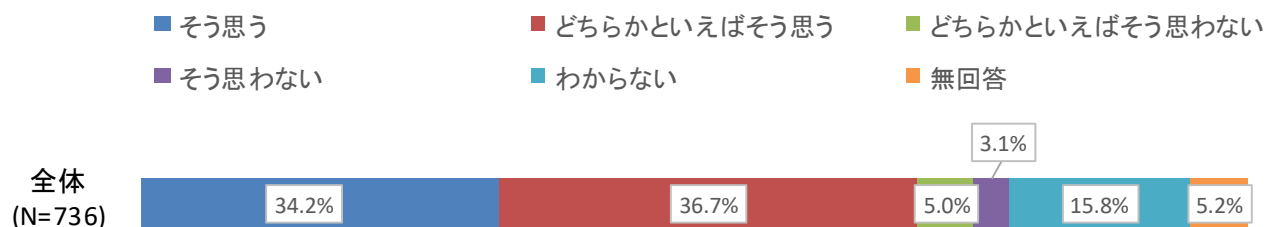
● L G B Tなど性的少数者の認知状況

「言葉は知っている」と回答した人は 45.0%、「言葉と意味の両方を知っている」と回答した人は 38.5%となっている。



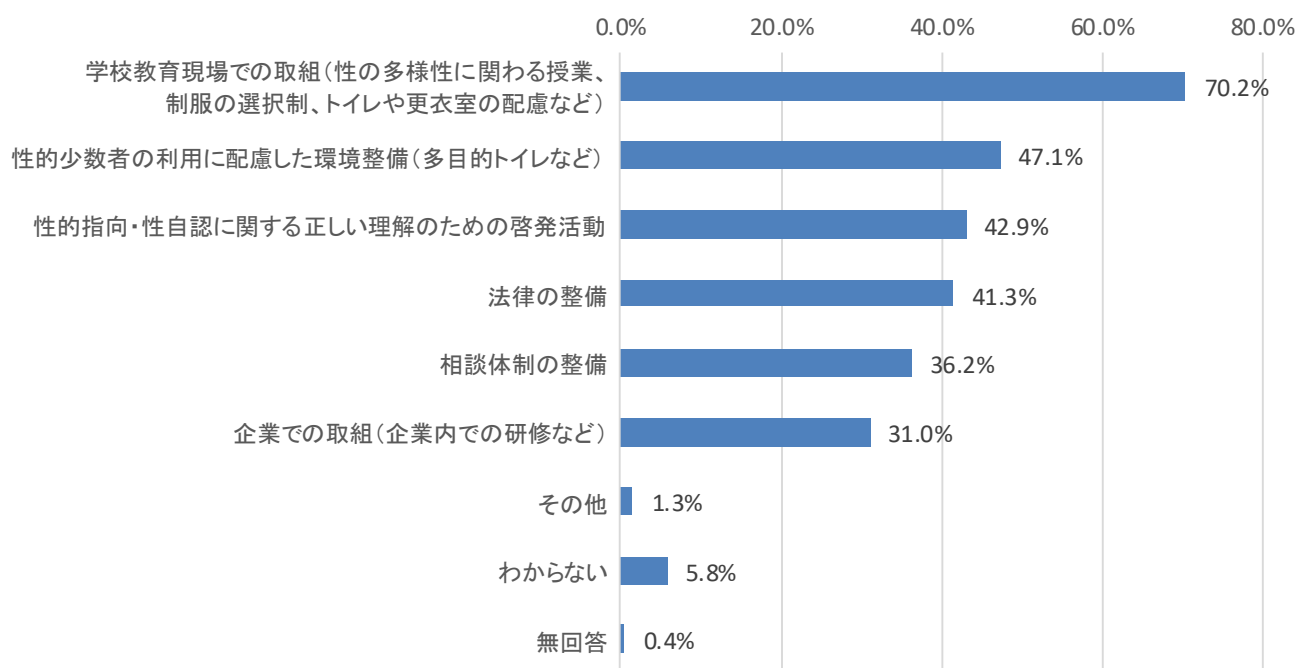
● L G B Tなど性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、約 7 割となっている。「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答した人は 1 割弱となっている。



● L G B Tなど性的少数者が生活しやすい社会にするために必要な取組（複数回答）

「学校教育現場での取組（性の多様性に関わる授業、制服の選択制、トイレや更衣室の配慮など）」と回答した人が最も多く、約 7 割となっている。次いで、「性的少数者の利用に配慮した環境整備（多目的トイレなど）」、「性的指向・性自認に関する正しい理解のための啓発活動」の順となっている。

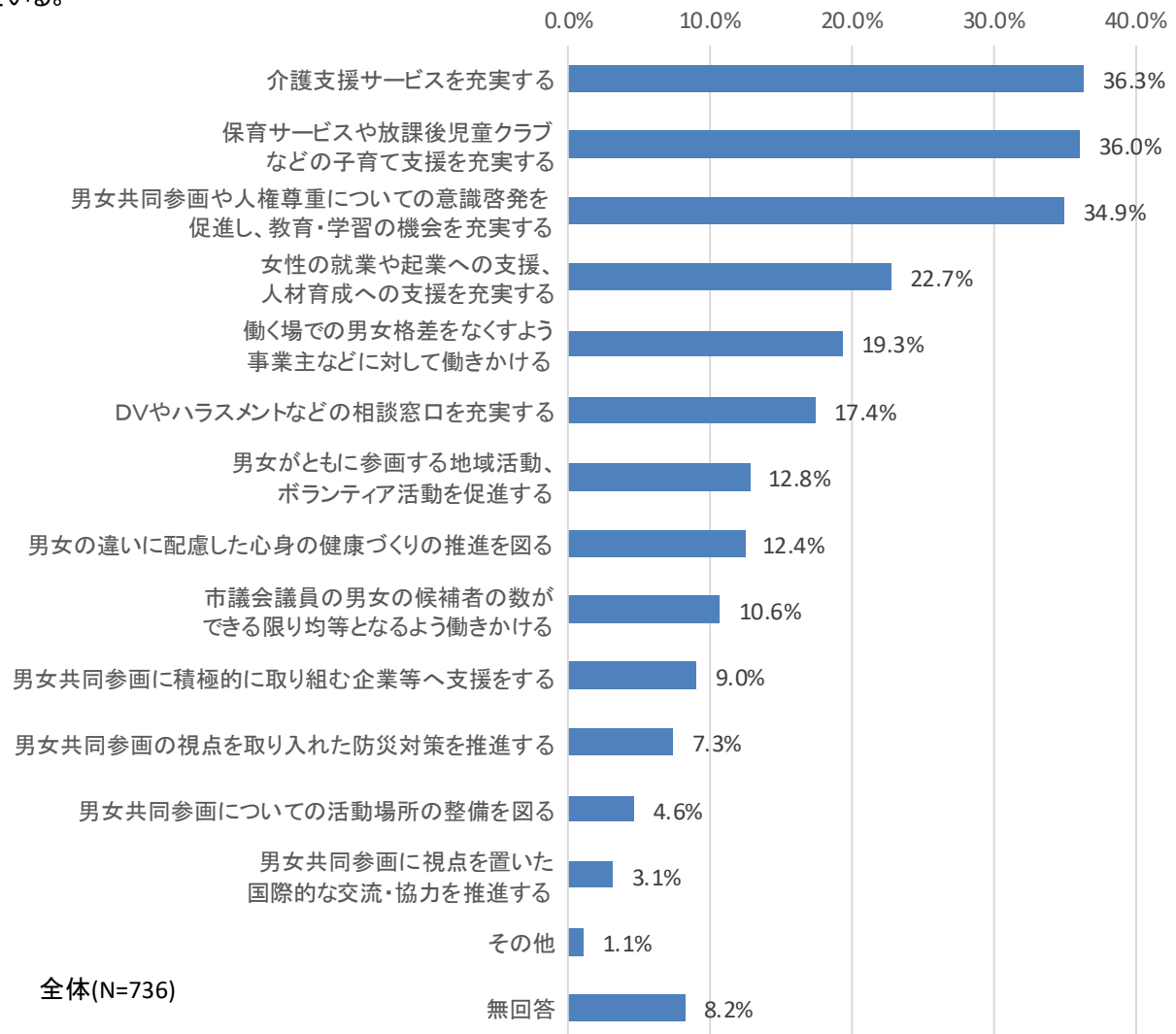


全体(N=736)

8 男女共同参画の推進

●玉野市の男女共同参画の推進に必要なと思う施策（複数回答）

「介護支援サービスを充実する」、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援を充実する」、「男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進し、教育・学習の機会を充実する」がほぼ同じ割合で高くなっている。



●女性に対する人権意識や女性の地位の改善状況

「非常に改善してきたと思う」または「どちらかといえば改善していると思う」と回答した人は約 7 割となっている。

